

2024年3月13日

各位

株式会社北洋銀行

## 株式会社フレッシュフーズ様の『SDGsコンサルティング』のご利用について

北洋銀行(取締役頭取 安田 光春)は、お客さまのSDGs経営への取り組みを支援するため「SDGsコンサルティング」を提供しています。今般、株式会社フレッシュフーズ様(北海道札幌市、代表取締役 宝蔵隆志様)が本サポートを利用し『サステナビリティ経営方針』を策定しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

近年、社会的にSDGsへの取り組みに対する関心が高まっており、企業イメージの向上や新たな事業機会の創出につながることから、多くの企業がSDGsへの取り組みを推進しています。

当行は今後も、北海道の地域金融機関として道内のSDGs促進・普及に貢献するために、お客さまのSDGsへの取り組みを支援してまいります。

記

### 会社概要

会社名	株式会社フレッシュフーズ
所在地	札幌市北区篠路5条7丁目2-32
代表者	代表取締役 宝蔵 隆志
業種	製造業(有機野菜サラダ、カット野菜の製造・販売)

※サステナビリティ経営方針の詳細は別紙をご参照ください。

以上



北洋銀行グループは、2018年12月「北洋 SDGs宣言」を表明し、地域の持続的成長支援と社会的課題の解決に取り組んでおります。なお、SDGsに関連するプレスリリースには、該当するSDGsのアイコンを明示しております。  
【SDGs】2015年の国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための2030年までの国際目標。17のゴールと169のターゲットで構成される。



FRESH FOODS HOLDINGS

### 経営理念

お客様へ感謝の気持ちを忘れずに真心を届ける。  
食を通して子供達により豊かで明るい未来を！  
正確な情報をお客様に伝え、信頼される会社を目指す。  
限りある資源を大切に、豊かな自然を育む心を次世代に受け渡す。

### 使命

- |                 |           |                        |
|-----------------|-----------|------------------------|
| <b>Fresh</b>    | <b>新鮮</b> | 素材とおいしさの追求             |
| <b>Research</b> | <b>開拓</b> | ここにしかない商品を作りあげる。       |
| <b>Eco</b>      | <b>環境</b> | 地球環境負荷を抑える職場づくりを目指す。   |
| <b>salad</b>    | <b>工場</b> | 安心、安全な商品作りができる環境を確立する。 |
| <b>Heart</b>    | <b>教育</b> | 「お客様第一」の精神を常に持ち続ける。    |

## 株式会社 フレッシュフーズ

# サステナビリティ経営方針

当社は「経営理念」と「使命」に基づき、『安全・新鮮・おいしい』をお客様へお届けするために安心安全・高品質な商品づくりを追求し、当社の中長期的な企業価値の向上と持続的経営の実現に努めるとともに、当社を支えていただいている全てのステークホルダーと地域社会・環境の持続的発展に貢献することを目指します。

### 事業に影響を与える環境変化

#### 環境

- 脱炭素に向けた社会変化
- 自然災害の激甚化
- フードロス削減への対応

#### 社会

- 人口減少・少子高齢化
- 価値観やライフスタイルの変化
- 働き方改革の進展
- 人権やジェンダーへの対応

#### ガバナンス

- 食の安全に関する対応
- 循環経済への加速
- 新型コロナによる産業構造の変化
- 人口減少による地域経済低迷

### 重要課題 (マテリアリティ)

### 取組内容

### 主なステークホルダー

#### 1 製品の安全性確保と高付加価値化

- ① 環境や健康に優しい製品の開発
- ② 安全と素材のおいしさを追求した製品の提供

消費者様

#### 2 従業員の健康促進

- ① 製造工程のオートメーション化や働き方改革によるワークライフバランスの推進
- ② 健康経営の推進

従業員

#### 3 地球環境負荷の低減

- ① 歩留向上によるフードロスの削減
- ② CO2排出量の削減
- ③ プラスチック使用量の削減
- ④ 水使用量の削減

地域社会

#### 4 地域との共生

- ① 地元食材の積極利用
- ② 地元人材の積極採用

地域社会

# サステナビリティ経営への取り組み



株式会社 フレッシュフーズ

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同し、持続可能な社会の実現に向けた積極的な取り組みを行ってまいります。

また、環境問題、労働負荷や人権問題など企業を取り巻く社会課題のうち、当社が将来にわたって事業活動を継続するために重要な課題をマテリアリティと定め、重点テーマを設定しております。重点テーマの取り組みを通じて、経営のリスクを回避し、イノベーション創出の機会を捉えてまいります。

## SDGs達成とマテリアリティへの取り組み

### 環境

当社は、事業活動における地球環境負荷低減に向けて、環境に配慮した包装資材の利用や節水に取り組むほか、脱フロン冷蔵設備などの導入により、地球環境や地域の自然環境保全を目指してまいります。

#### 【SDGs達成に向けた具体的な取り組み】

- ・在庫管理の徹底
- ・歩留向上に向けた取組
- ・梱包材のリサイクル
- ・環境配慮型の包装資材の導入
- ・配水調整や蛇口の見直しによる水使用量の削減
- ・省エネ機器導入によるCO2排出量削減に向けた取組
- ・営業車輛のEV化



#### 【マテリアリティに基づく取組内容とKPI】

重要課題	取組内容	目標・KPI
地球環境負荷の低減	歩留向上によるフードロスの削減	・2024年度までに歩留率を4ポイント改善する(2023年度対比)
	CO2排出量の削減	・2024年度までにCO2排出量を可視化し、2030年度までに売上高あたりのCO2排出量を50%削減する(2023年度対比)
	プラスチック使用量の削減	・2026年度までに売上高あたりの包装資材・梱包材のプラスチック使用率を5ポイント削減する(2023年度対比)
	水使用量の削減	・2026年度までに売上高あたりの水使用率を3ポイント削減する(2023年度対比)



### 社会・地域

当社は、従業員が健康に安心して働ける環境づくりに向けて、製造工程のオートメーション化やワークライフバランスの推進など女性も活躍できる多様性ある職場環境を整備し、従業員およびその家族の満足度向上を目指します。

また、食にかかわる企業として、地元食材の積極的な調達や、地域の子どもたちへの食育活動を通じて、持続可能な地域社会の発展に貢献します。

#### 【SDGs達成に向けた具体的な取り組み】

- ・製造工程のオートメーション化に向けた取組
- ・定期健康診断の項目充実
- ・健康経営優良法人認定の取得、維持
- ・有給休暇の取得推進
- ・福利厚生制度の充実
- ・採用のダイバーシティ化
- ・地元人材の積極採用
- ・食育活動の取組
- ・地元食材の積極利用
- ・地元生産者と連携した商品開発の取組



#### 【マテリアリティに基づく取組内容とKPI】

重要課題	取組内容	目標・KPI
従業員の健康促進	製造工程のオートメーション化や働き方改革によるワークライフバランスの推進	・2024年度までにオートメーション機器を7台導入する ・2025年度までに包装工程の50%をオートメーション化する ・全従業員の有給休暇取得率を毎年度向上させる ・2027年度までに福利厚生制度を1件追加する
	健康経営の推進	・2030年度までに健康経営優良法人認定を取得し継続する
地域との共生	地元食材の積極利用	・北海道産食材の使用率を毎年度向上させる
	地元人材の積極採用	・2025年度までに1拠点あたり5人以上の地元人材の雇用を維持する

### 経済・ガバナンス

当社は、商品の安全性確保に向けて、有機野菜の積極的な調達やJFS規格の取得・継続を通じ、安心安全・高品質な商品づくりを目指します。

#### 【SDGs達成に向けた具体的な取り組み】

- ・有機野菜の積極利用
- ・トレーサビリティ管理のシステム化
- ・JFS規格の取得、維持
- ・BCP対策の取組
- ・商品の即日加工、即日出荷による高鮮度の実現
- ・コンプライアンス研修の取組
- ・ガバナンス体制構築に向けた取組
- ・セキュリティの強化



#### 【マテリアリティに基づく取組内容とKPI】

重要課題	取組内容	目標・KPI
製品の安全性確保と高付加価値化	環境や健康に優しい製品の開発	・2025年度までに有機野菜を使用した新商品を5件開発する ・2033年度までに有機野菜の使用率を60%にする
	安全と素材のおいしさを追求した製品の提供	・2033年度までに売上高を175%増加させる(2023年度対比) ・2025年度までにトレーサビリティ管理体制を構築する ・主要取扱品目の原材料生産者のトレーサ率を毎年度向上させる ・2025年度までにJFS-B規格を取得し継続する

